

未来に向かって輝き続ける都市へ 新東名で令和の秦野はどう変わる?

注) IC:インターチェンジ
SA:サービスエリア
JCT:ジャンクション

※IC, SA, 橋名は全て仮称です。

富士山

現在、NEXCO中日本(秦野工事事務所)において新東名高速道路建設工事が進められています。工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

名古屋方面

秦野SA



※葛葉川橋の建設工事の様子(善提) 撮影:令和元年11月



期待される効果

新東名高速道路の開通により、交通利便性が向上し、観光資源を活用した地域活性化、災害時の支援体制強化など様々な効果が期待されています。



1 交通利便性の向上

上地区に秦野IC、北地区に秦野スマートICが設置されることにより高速道路へのアクセスが良くなり、交通利便性の向上が見込まれます。

また、市街地や幹線道路の混雑を回避した高速道路アクセスが可能となり、一般道の渋滞緩和による沿道環境の改善や交通事故の減少も期待されます。

2 救急・救命サービスの向上

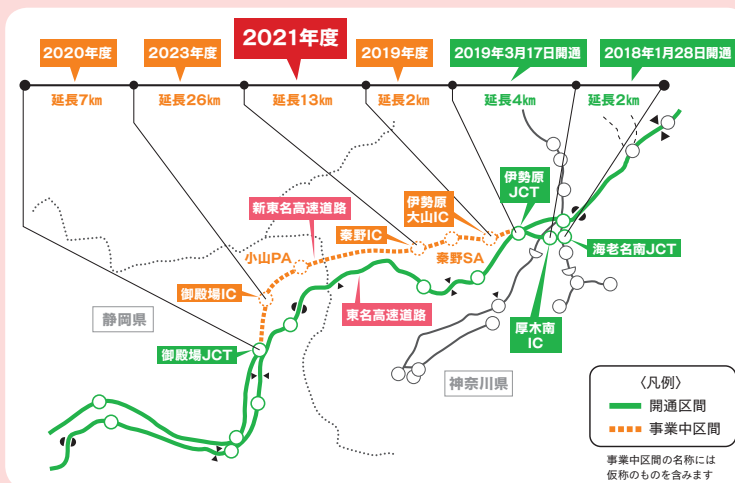
現在、高度医療施設である東海大学病院(伊勢原市)へのアクセスは、国道246号のみとなっています。

国道246号は慢性的な渋滞が発生する路線であり、1分1秒を争う人命救助において、搬送に要する時間が大きな課題となっていました。新東名高速道路を利用できるようになることで搬送時間の短縮が可能となり、救命率の向上が見込まれます。また、高速道路の走行による振動の抑制などにより、搬送時のより正確な手当や患者の負担軽減などが期待されます。

3 災害時の支援体制の強化

今後、発生が危惧されている首都直下地震など大規模な災害時に現東名高速道路や国道246号が寸断されると、物資の輸送や救命活動に大きな支障となり、市民の生活においても大きなリスクを抱えることになります。

新東名高速道路が開通することで現道との代替えネットワークが確立され、迅速な救護・救助や物資輸送の確保など、災害時においても大きな役割を果たすことが期待されます。



開通時期が見直しとなりました

秦野市域の開通は2021年度

新東名高速道路(海老名南JCT～御殿場JCT間)は開通時期を2020年度として、建設工事が進められていましたが、令和元年8月下旬にその見直しが発表されました。



見直しの背景には、調査面積が東京ドーム約5個分にも及ぶ膨大な埋蔵文化財調査や秦野ICから御殿場JCT間の傾斜が急で険しい山岳地形での工事が難航したことなどが影響しています。

これにより伊勢原JCTから秦野ICまでの開通時期は2021年度、全線開通は2023年度となっています。(※伊勢原JCT～伊勢原大山ICは2019年度開通予定)



市の取り組み



秦野SA周辺の整備イメージ



スマートICアクセス道路の整備



秦野SAに設置されるスマートICと地域の幹線道路である県道705号を接続する道（アクセス道路）の整備を進めています。令和元年度から2年度にかけてアクセス道路及び県道705号の拡幅工事を行っています。

また、スマートIC開通に伴う交通量増加への安全対策事業も引き続き行っています。工事中は交通規制等によりご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



新東名高速道路建設促進協議会



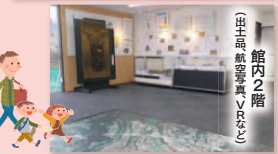
高橋市長が促進大会において決議文を朗読

令和元年11月11日に開催された新東名高速道路建設促進協議会の促進大会において、沿線自治体を代表し、高橋市長が更なる整備促進に向けて決議文を読み上げました。
冒頭のあいさつでは、激甚化する昨今の台風等の災害時に緊急輸送道路として新東名高速道路が担う役割について触れ、1日も早い全線開通を強く訴えました。（新東名高速道路建設促進協議会は神奈川、静岡、愛知の3県と名古屋、静岡、浜松の3市で構成されています。）

NEXCO中日本からのお知らせ

秦野事業PR館

今年1月に新東名秦野SA建設地において、秦野事業PR館がオープンしました。PR館では主に秦野市内の工事の進捗状況や完成予想図、出土した埋蔵文化財や開通後をイメージしたジオラマなどが展示されています。ぜひ、一度足を運びください。なお、見学には予約が必要です。



ご予約はこちらから！（電話・WEBも同様の受付とします）

窓	□ NEXCO中日本(秦野工事事務所)
電話予約	☎ (80)5600(平日:午前9時~午後5時半)
予約受付	◆受付開始:30日前の午前9時から ◆受付締切:7日前の午後4時まで ◆キャンセル受付:2日前の午後4時まで
見学開催日	火曜(午前10時・11時)、水曜(午後1時半・2時半・3時半)、木・土曜(午前10時・11時・午後1時半・2時半・3時半)
参加費用	無料 WEB https://airrsv.net/shintomei-hadano/calendar

厚木秦野道路(国道246号バイパス)

厚木秦野道路の期待される効果

厚木秦野道路とは、厚木市から秦野市八沢へ至る、計画延長約29.1kmの自動車専用道路（地域高規格道路）です。
現在の国道246号は、慢性的な交通渋滞により、都市間を結ぶ交通の定時性が損なわれることで、日常的な生活に加え、観光や物流、救急搬送時間の増加など多岐にわたり私たちの生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。
厚木秦野道路の開通は、新東名高速道路と一体となって、現状の交通問題の改善を図るとともに、地域の交流・連携の強化、物資の流通促進、沿線都市の歴史、文化、自然等を生かした観光需要の拡大や企業の立地など経済の好循環をもたらすことが期待されています。

現在の状況

平成26年度に伊勢原西IC～東名秦野中井IC間5.2km（うち秦野市区間3.7km）が事業化されました。
本市では、伊勢原市・厚木市・中井町の3市1町で「国道246号バイパス建設促進協議会」を組織し、全線の早期事業化、整備促進を国などの関係機関に要望しています。



国土交通省要望活動（左から3人目が利田国土交通大臣政務官、2人目が高橋市長）

秦野IC料金所～八沢入口交差点



新東名高速道路関連事業として、国土交通省（横浜国道事務所）が工を行っています。
令和元年11月、秦野ICランプ橋の新設が行われ、国道246号を跨ぐ橋桁が架かりました。引き続き、ランプ橋上部工事、ICの盛土工事・擁壁工事等が進められる予定です。